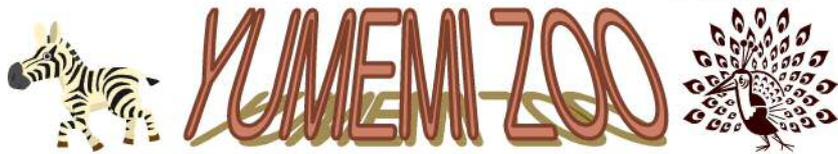


# ゆめみにゅーす



季刊 VOL. 43  
 発行日 平成29年2月3日  
 発行責任者 夢見ヶ崎動物公園  
 問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:25種167点  
 鳥類:28種107点  
 爬虫類:11種41点  
 (平成29年1月末日現在)

## 新顔紹介

昨年末、ポリビアリスザルの♀どうしを、繁殖のため日立市かみね動物園と交換しました。新しくやってきたのはポルト 4歳、勇ましい名前ですが、小さくて愛らしい顔立ちです。検疫のためしばらく隔離していた後、展示場に入れると、群れにはすぐ受け入れられたものの、しばらくすると発情したポルトをめぐって、これまで仲が良かった♂同士が小競り合いをするように。本能に基づく行動で、大げがでもしない限りは見守っていくところです。それにしても、年中交尾可能なヒトと違い、♀の発情にいち早く気づくみの能力はさすがです。



←  
ポルト(右端)



→  
到着翌日のバシル

一方、エリマキキツネザルのユウトにも日本モンキーセンターからお嫁さん候補がやってきました。愛称はバシル、5歳です。くりくりしたどんぐりまなこが特徴で、初めは緊張していましたが、最近是人懐こさも見せ始めました。ユウトとの同居に向けてお見合いで少しずつ慣らしているところですが、早くもお互い興味しんしんのようです。

さる年の終わりにやってきた新顔サルたちが、川崎の地で元気にやっていけますよう、見守っていただければと思います。



## 第17回春の動物園まついのおしらせ

春の動物園まついのお知らせです。

★日時：平成29年3月19日(日) 10時~15時 小雨決行

★シマウマ餌やり体験、ヤギの餌やり体験、動物ふれあいコーナー、バックヤードツアー、コンサートコーナー、竹細工コーナー、野鳥クイズ等  
 当日は駐車場の利用はできないため、公共交通機関の利用をお願いします。  
 詳しくはホームページ、市政だより等もご覧ください。



# ★ピックアップ動物★

## クロシロエリマキキツネザル

哺乳綱 サル目 キツネザル科

マダガスカル島の東部多雨林に生息し、10数頭以下の小さな群れで暮らしますが、単独行動になったり、ペアで行動したりと、固定的ではありません。昼行性で、果物を中心に食べ、木の葉や花の蜜を食べることもあります。

けたたましい大声で鳴くことがありますが、怒っているわけではなく、縄張り宣言や、分散した群れの仲間への呼びかけなどの意味があると考えられています。

野生下では、狩猟や森林伐採などにより生息数が減少し、近い将来絶滅する恐れが極めて高いとされており、対策が急がれます。特に懸念されているのは、木材だけでなく、宝石や金属などの鉱物資源の発掘のため、あるいは耕作地確保のためなどの森林伐採です。しかしマダガスカル島は政治、経済的な理由などにより、豊かな自然が保護されづらい状況にあります。

この動物の故郷に対して何ができるかだけでなく、同じ島国で固有種をたくさんもつ日本に住む我々は、日本の自然についてそのようにならぬよう、真剣に考える必要があります。美しいだけでなく、害獣と呼ばれる生物や災害、ヒトも含めて自然です。答えは一つではないと思いますが、考えなければ始まりません。



## 獣医の日記

私たちが毎日のお世話になっているもののひとつが注射針です。細いの、太いの、長い、短いの色々ありますが、ただ薬を注射する以外にも色々使い道があり、使い方や使う相手によって使い分けています。

薬などを注射する時、太い針の方がすぐに終わりますが、太ければ皮膚にあく穴も大きく、打った薬が漏れてきますし、なにより痛いです。かといって細すぎると薬を打ち終わるまでに時間がかかりすぎ、動物を押さえている時間が長くなってしまいます。この太い、細いというのも動物の大きさや皮膚の厚さによって変わるので、その都度ちょうど良いものを選ばなくてははいけません。採血の場合は血管に針が入らなくてははいけないので、それにあった太さを使いますが、見えない血管に刺す場合は勘と経験で選びます。ただし太さがバッチリでも、採血する獣医が下手だと血は取れませんが…。処置のためにほんの少しだけ皮膚を切るのに使うこともあります。切れ味鋭く、メスを使うより傷が小さくて済むからです。骨折したとき、骨の中にピンといって金属製の細い棒を入れて支えにすることがありますが、小鳥などの場合は、軽くて細い注射針を替わりに使うこともあります。

そんなこんなで獣医が愛用する注射針ですが、私は刺してばかりで、実は刺されるのは苦手です。大人なので、我慢しますけれども。



## ★動物たちの主な移動(平成28年11月1日～平成29年1月31日)★

ミノヒキチャボ(♀1死亡)、コシャモ(♂1死亡)、マーコール(♀1死亡、♂1死亡)、ヤギ(♀1死亡)、ポリビアリスザル(♀1交換)、フンボルトペンギン(♂2死亡)、エリマキキツネザル(♀1搬入)、ベトナムキジ(♀1死亡)、フサホロホロチョウ(♀1死亡)、アカオヒメシャクケイ(♂1死亡)